

つぶしたらアカン 大阪のええところ

関市長は、税金をムダづかいする一方、「身の丈改革」とか「経営改革の見直し」と称し、他市にない優れた施設や市民財産を超安値で民間に売り渡すなどの計画をすすめています。この問題も、大阪市政の争点のひとつに浮上しています。つぶしたらアカン施設などの一部を紹介します。



敬老優待乗車証 (敬老パス)

昭和47(1972)年に創設。70歳以上を対象に地下鉄・市バス・ニュートラムの乗車料金が無料になる、高齢者にたいへん喜ばれている制度。2005年の有料化の動きを市民の反対運動で継続させる。



大阪市立弘済院



明治43年(1910)8月に総合的な救済施設として誕生。昭和9年(1934)山田事業所を現、吹田市古江台に建設。昭和19年(1944)4月大阪市が事業を引き継ぎ、福祉・保健・医療の連携による総合福祉施設として福祉事業の発展に大きく寄与している。

大阪市立環境科学研究所



明治39年(1906)8月、「市立大阪衛生試験所」として創設され、食品衛生検査や微生物・食品・環境分野に関する調査・研究を行う総合科学的試験研究機関として改称、改組を繰り返しながら、昭和49年(1974)12月、「大阪市立環境科学研究所」となる。

大阪市立美術館



昭和11年(1936)5月に開館。住友家の本邸があった所で、庭園(慶沢園)とともに寄贈された。収蔵品は日本・中国の絵画・彫刻・工芸など8000件をこえる。付設の美術研究所があり、素描、絵画、彫塑の実技研究を行っている。

大阪市立工業研究所



大正5年(1916)に設立。新技術の開発研究と、企業・業界を対象に技術相談・試験分析・受託研究・情報提供サービスを実施。創造的自主技術の開発ならびにその指導普及を目的とする工業技術に関する総合研究支援機関。

大阪のよさ

庶民性

渡辺 いい意味の庶民性だと思います。江戸時代を通して大阪は武士がほとんどいない、身分のうえでは一番下の庶民ばかり、肩書きがどうの、生まれはどうの、身分はどうのというようなことを基準にしてものを考えない伝統が、今でも大阪人のDNAになっているのじゃないか。

大阪のおばちゃん

井上 女性のパワーが文化をつくり、子育てをし、生活を守ることを日々

姫野さんへの期待と市長選挙へ提案

百歳まで生き生きと

井上 百まで生き生きがんばれる大阪市政に。

お年寄りのこわいものは、むかしは中風。次の世代はガン。今は認知症そして貧乏。

「長生きしてもなあ」と言うてたのが、「早よ死にたい」に変わっている。「あまりにも年金が少なすぎ、貧乏して生きていくのはいやや」と。今、最低生活をしようと思ったら20万円です。生活保護にしろ、年金にしろ15万円ちょっとではダメです。20万円を要求してだれもが安心して暮らせるような、そういう市政にしてほしいなと思っています。

感じています。おばちゃんの庶民性が、おそらく歴史をつくり変えてくれるのではないかと期待しています。

ホンネで暮らすおばちゃん



藤永 女性は、長い時間かけて夫を育てていますから、女性が変わると家庭が変わるので。だから大阪のおばちゃん

安全 安心 涼しい大阪

藤永 大阪はとにかく全国一暑い。大気汚染の状況だって決してよくない公害は終わったというけど決して終わってない。やはり安全、安心、涼しい大阪大作戦。子どもからお年寄りまでみんなが暮らしてよかったといえる大阪につくりかえてほしい。

毅然(議会) 財界 同和

渡辺 毅然とした姿勢を、議会・財界・同和関係の施策に対して貫いてほしい。一般の市民に対しては絶対いばってはなりません。

暮らしを応援する市政

姫野 いま求められている大阪市政のいちばん大事なことは、みなさんの暮らしを応援する市政をめざすこと。

んに分らんようなピラを作ったたらあかん。むずかしい漢字でしゃべったらあかん。おばちゃんは、子どももひっぱり込み、子どもを変え、夫を変え、また実家を変えます。ですから自立した大阪の女性の力をバカにしたらあかん。

粘り強さ バイタリティ

姫野 ねばり強い大衆運動、そしてそれを動かしている大衆組織、この力は全国に誇れるものです。

1960年代の終わりから大阪市ではじまったのが、自社公民のオール与党政治であり、これが市政をゆがめてきました。今は崩壊のきざしも現れております。新しい大阪の政治を切り開く選挙にしなければならなりません。



市政の大もとを変えよと発言する姫野さん